

國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

菊地康人教授 年譜，執筆等一覧

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国学院大学日本語教育研究会 公開日: 2025-07-02 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001732

菊地康人教授 年譜，執筆等一覧 (2025年3月現在)

年譜

- 1954.10.19. 東京に生まれる
- 1973.3. 栄光学園高等学校卒業
- 1973.4. 東京大学教養学部文科三類入学
- 1977.3. 東京大学文学部卒業 (言語学専攻)
- 1977.4. 東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学 (言語学専攻)
- 1979.3. 同 修了
- 1979.4. 東京大学大学院人文科学研究科博士課程入学 (言語学専攻)
- 1982.3. 同 単位取得退学
- 1982.4. 東京大学助手 (文学部言語学研究室)
- 1986.3. 東京大学講師 (留学生教育センター)
- 1987.4. 東京大学大学院兼担 (人文科学研究科言語学専攻) (1988.3 まで)
- 1988.4. 東京大学助教授 (留学生教育センター。1990.6 からは留学生センター)
- 1993.4. 東京大学大学院兼担 (人文科学研究科言語学専攻。1995.4 からは人文社会系研究科言語学専攻)
- 2002.2. 東京大学教授 (留学生センター。2010.4 からは日本語教育センター)
- 2010.4. 東京大学日本語教育センター長併任 (2012.3 まで)
- 2020.3. 東京大学教授 (日本語教育センター，大学院人文社会系研究科言語学専攻兼担) を定年により退職
* なお東京大学では，文学部の講義 (2001-19 年度)，教養学部所管の「全学ゼミ」(1992,93,2009-17 年度) も担当した
- 2020.4. 国学院大学教授 (特別専任，文学部日本文学科，大学院文学研究科)
- 2020.6. 東京大学名誉教授
- 2025.3. 国学院大学教授を定年により退職
- 2025.4. 国学院大学大学院客員教授 就任予定

本務以外

[学会関係] (主なもののみ)

日本言語学会 事務局長 (1987.1-1988.3)，常任委員 (1985.4-1988.3，2003.4-2009.3)，委員・評議員 (1988.4-2021.3)

日本語教育学会 理事 (1997-2002 年度), 大会委員長 (1997-1998 年度), 大会委員 (1993-1998 年度, 2011-2014 年度)

日本語学会 評議員 (2000.4-現在)

日本語文法学会 大会委員長 (2000-2003 年度), 会長 (2013-2015 年度), 評議員 (2000-2015 年度)

韓国日本語学会 編集委員 (2003.10-2009.9)

[各種公務等] (担当年度は省略)

日本語能力試験 企画小委員会調査員 (出題基準作成), 試験小委員会委員 (出題)

日本語教育能力検定 出題委員

言語聴覚士国家試験 出題委員

文化審議会国語分科会 委員 (「敬語の指針」作成)

学術審議会専門委員 (科学研究費審査)

国立大学日本語教育研究協議会 副代表理事

[他大学出講] (担当年度は省略)

東洋大学短期大学, 法政大学文学部, 筑波大学留学生教育センター, お茶の水女子大学文教育学部, 東京外国語大学外国語学部・大学院, 日本女子大学文学部, 上智大学文学部, 早稲田大学大学院;
(以下, 集中講義) 愛媛大学法文学部, 富山大学文理学部, 北海道大学文学部, 大阪外国語大学大学院, 広島大学教育学部, 名古屋大学文学部, 大阪大学文学部, 金沢大学文学部・教育学部, 東京外国語大学大学院, 東北大学文学部

[各種社会的活動] (主なもののみ, 年度は省略)

日本語教員養成/現職日本語教員研修 (講師・企画): 日本語教育学会 日本語教育研修会理論課程等, 国際交流基金 海外日本語教師研修, 朝日カルチャーセンター, 東京日本語学校

高等学校国語教科書 編集委員: 三省堂

受賞

1995.12. 第23回 金田一京助博士記念賞

執筆等一覧 共著/共同研究については, 各項の初めに著者名/研究者名を〈 〉に入れて示す。

著書 論文集等でその論文を分担しただけの場合は「論文等」の項にのみ掲げる。辞典等の分担執筆は別掲。

1 〈共著: 辻村敏樹編, 桑山俊彦・細川英雄・川岸敬子・菊地康人〉『敬語の用法』角川書店 (角川小辞典 6), pp.431, 1991.2.10.

- 2 『敬語』 角川書店, pp.392+索引 pp.6, 1994.6.10.
- 3 『敬語再入門』 丸善 (丸善ライブラリー), pp.278, 1996.8.20.
- 4 『敬語』 講談社 (講談社学術文庫), pp.483, 1997.2.10. (上記2の再刊)
- 5 〈外国語への翻訳〉 『現代日語敬語常識 100 例』 菊地康人著・蔡敦達訳, 上海訳文出版社, pp.277, 1999.12. (上記3の中国語訳)
- 6 〈共編著 編者: 秋山虔・渡辺実, 編集委員: 小町谷照彦・倉田実・菊地康人・井島正博〉 『三省堂詳説古語辞典』 三省堂, pp.1502, 2000.1.10.
- 7 〈共編著: 山田進・菊地康人・靱山洋介〉 『日本語 意味と文法の風景 — 国広哲弥教授古稀記念論文集 —』 ひつじ書房, pp.372, 2000.2.29.
- 8 〈編著〉 『朝倉日本語講座 8 敬語』 朝倉書店, pp.x+291, 2003.3.25. [2018.5.10.新装版]
- 9 『敬語再入門』 講談社 (講談社学術文庫), pp.285, 2010.3.10. (上記3の改訂再刊)
- 10 〈共著: 増田真理子・菊地康人・前原かおる・河内彩香〉 『Get Connected! 日本語でつながる!』 東京大学日本語教育センター, pp.262, 2020.3.31.
- 11 〈外国語への翻訳〉 『日本人也想知的日語敬語 100 問』 菊地康人著・蔡敦達訳, 華東理工大学出版社, pp.270, 2024.1. (上記9の中国語訳)

ウェブ上の著作 (eラーニング日本語教材)

- 12 〈増田真理子・前原かおる・菊地康人・李相穆〉 *Hiragana*, 東京大学日本語教育センターウェブサイト <https://www.todai-ic-nihongo.com/incenter/materials/elm/hiragana/hiragana2.html>, 2007.
- 13 〈増田真理子・前原かおる・菊地康人・李相穆〉 *Katakana*, 東京大学日本語教育センターウェブサイト <https://www.todai-ic-nihongo.com/incenter/materials/elmin/katakana/katakana.html>, 2007.
- 14 〈菊地康人・増田真理子・前原かおる・李相穆〉 *Conjugating Verbs*, 東京大学日本語教育センターウェブサイト <https://www.todai-ic-nihongo.com/incenter/materials/elmin/conjugation/index.html>, 2008.

論文等 論文に準じるもの (学問的な見解を相応に含むもの) もこの項に掲げた

- 1 「現代日本語の敬語の研究 及び 受身構文分析の試み」 卒業論文, 東京大学文学部, 1977.1.
- 2 「敬語の性格分析 — 先学の敬語論と私自身の把握 —」 『国語と国文学』 55 巻 12 号 (12 月号), 東京大学国語国文学会/至文堂, pp.42-56, 1978.12.1.
- 3 「日本語の文の構造の分析」 修士論文, 東京大学大学院人文科学研究科, 1978.12.
- 4 「日本語の「文核」の基底構造と意味解釈」 『言語学演習78』 東京大学大学院柴田ゼミ, pp.72-86, 1979.2.26.
- 5 〈佐川誠義・菊地康人〉 「「ラーガ交替」について」 『研究報告「日本語の基本構造に関する理論的・実証的研究」 1978 年』 (1978 年度科学研究費特定研究 (1) 報告書 研究代表者: 井上和子), pp.203-231, 1979.
- 6 「「謙讓語」について」 『言語』 8 巻 6 号 (6 月号), 大修館書店, pp.32-37, 1979.6.1.

- 7 「「上下待遇表現」の記述」『国語学』122, 国語学会／武蔵野書院, pp.39-54, 1980.9.30.
- 8 「格助詞「が」「を」「に」の配置 (case marking) 試案」『言語学演習'81』東京大学文学部言語学研究室, pp.120-130, 1981.3.28.
- 9 「日本語の構文論研究の動向 (国内)」『言語』12 卷 6 号 (6 月号), 大修館書店, pp.132-135, 1983.6.1.
- 10 「コエル・コス」国広哲弥編『意味分析』東京大学文学部言語学研究室, pp.20-22, 1983.6.27.
- 11 「バカリ・ダケ」国広哲弥編『意味分析』東京大学文学部言語学研究室, pp.57-59, 1983.6.27.
- 12 「日本語の構文論研究の小史・動向・展望」『東京大学言語学論集'84』東京大学文学部言語学研究室, pp.91-148, 1984.12.15.
- 13 「主語・述語」『大百科事典』7, 平凡社, pp.182-183, 1985.3.25.
- 14 「シンタクス」『大百科事典』7, 平凡社, p.995, 1985.3.25.
- 15 「生成文法」『大百科事典』8, 平凡社, pp.353-354, 1985.3.25.
- 16 「チョムスキー」『大百科事典』9, 平凡社, pp.1070-1071, 1985.3.25.
- 17 「文」『大百科事典』13, 平凡社, p.316, 1985.6.25.
- 18 「文節」『大百科事典』13, 平凡社, p.370, 1985.6.25.
- 19 「文法」『大百科事典』13, 平凡社, pp.386-389, 1985.6.25.
- 20 「動詞の尊敬語形・謙讓語形とその相互承接形」『国文学 解釈と鑑賞』51 卷 1 号 (1 月号), 至文堂, pp.103-111, 1986.1.1.
- 21 「生成文法」『国文法講座 1 文法の体系』明治書院, pp.198-224, 1987.10.25.
- 22 「作文の評価方法についての一私案」『日本語教育』63, 日本語教育学会, pp.87-104, 1987.10.31.
- 23 「敬語と言語体系 言語における敬語／敬語と意味／敬語と文法／敬語と文体」金田一春彦・林大・柴田武編『日本語百科大事典』大修館書店, pp.615-625, 1988.5.1.
- 24 「類推」『日本大百科全書』24, 小学館, pp.235-236, 1988.11.1.
- 25 「従属節中の語句の主題化と分析できる「X は Y が Z」文について」『東京大学言語学論集'88』〈風間喜代三先生退官記念号〉, 東京大学文学部言語学研究室, pp.203-227, 1988.12.20.
- 26 「待遇表現 — 敬語を中心に —」宮地裕編『講座日本語と日本語教育 1 日本語学要説』明治書院, pp.276-310, 1989.9.30. [再録 (付記付き): 宮地裕編『日本語と日本語教育のための日本語学入門』明治書院, pp.233-260, 2010.8.25.]
- 27 「「X の Y が Z」に対応する「X は Y が Z」文の成立条件 — あわせて, 〈許容度〉の明確化 —」『文法と意味の間 — 国広哲弥教授還暦退官記念論文集 —』くろしお出版, pp.105-132, 1990.6.1.
- 28 「「X と Y が(は)」と「X が(は) Y と」 — 用法の整理と言語学的な解析 —」『東京大学 留学生センター紀要』1, pp.15-69, 1991.3.20.
- 29 「作文 — その性質と出題・採点 —」『日本語テストハンドブック』大修館書店, pp.305-324, 1991.4.10.

- 30 「敬語化・非敬語化のモデル」『辻村敏樹教授古稀記念 日本語史の諸問題』明治書院, pp. 177-192, 1992.3.30.
- 31 「日本語教育における文法の役割」『言語』22 卷 1 号 (1 月号), 大修館書店, pp.45-53, 1993.1.1.
- 32 「日本語教育のための基礎研究 — 言語学者の仕事と日本語教育家の仕事 —」『東京大学 留学生センター紀要』3, pp.13-48, 1993.3.
- 33 「日本語教科書の作成と言語学 — あわせて, 動詞の活用のとりあげ方について —」『東京大学 留学生センター紀要』4, pp.17-40, 1994.3.31.
- 34 「〈背景解析型〉の「は」構文とその周辺」『東京大学 留学生センター紀要』5, pp.49-98, 1995.3.31.
- 35 「〈細分並立型〉の「は」構文とその周辺」『東京大学言語学論集』14 〈土田滋先生退官記念号〉, 東京大学文学部言語学研究室, pp.407-462, 1995.3.31.
- 36 「変種型の「X は Y が Z」文 — 並立によって成り立つものを中心に —」『長谷川欣佑教授還暦記念論文集』 研究社, pp.139-152, 1995.4.25.
- 37 「「は」構文の概観」益岡隆志・野田尚史・沼田善子編『日本語の主題と取り立て』くろしお出版, pp.37-69, 1995.5.20.
- 38 「〈内容説明型〉〈方法説明型〉の「は」構文」『築島裕博士古稀記念 国語学論集』汲古書院, pp.1156 (左 57) -1131 (左 82), 1995.10.12.
- 39 「現代敬語 Q & A 40」『国文学 解釈と教材の研究』40 卷 14 号 (12 月号), 学燈社, pp.82-122, 1995.12.10.
- 40 「国語教育と日本語教育」『日本語教育』(新「ことば」シリーズ 3), 文化庁, pp.77-90, 1996.3.21.
- 41 「「X が Y が Z」文の整理 — 「X は Y が Z」文との関連から —」『東京大学 留学生センター紀要』6, pp.1-46, 1996.3.31.
- 42 「名詞句「A が B の C」とその関連諸表現についての基礎研究 — V 性と N 性の中和を一つの柱として —」『言語学林 1995-1996』三省堂, pp.425-441, 1996.4.30.
- 43 「上下の言語学」『言語』25 卷 5 号 (5 月号), 大修館書店, pp.48-51, 1996.5.1.
- 44 「待遇表現」『日本語学』15 卷 8 号 (7 月臨時増刊号), 明治書院, pp.86-93, 1996.7.15.
- 45 「「カキ料理は広島が本場だ」構文の成立条件」『広島大学日本語教育学科紀要』7 〈学科創設 10 周年記念号〉, pp.89-107, 1997.3.8.
- 46 「敬語の基本」 「適切な敬語」清水康行編『日本語表現法』放送大学教育振興会, pp.49-64 + 65-82, 1997.3.20.
- 47 「変わりゆく「させていただく」」『言語』26 卷 6 号 (6 月号), 大修館書店, pp.40-47, 1997.6.1.
[再録: 『『言語』セレクション第 2 巻』大修館書店, pp.248-255, 2012.5.1.]
- 48 「敬語の原理をどう教えるか」『三省堂高校国語教育』1997-夏, 三省堂, pp.18-27, 1997.6.2.
- 49 「「が」の用法の概観」川端善明・仁田義雄編『日本語文法 体系と方法』ひつじ書房, pp.101-123, 1997.10.30.

- 50 「敬語の要点」『三省堂現代国語辞典』三省堂, pp.1372-1376, 1998.11.20. [再録: 『三省堂現代新国語辞典』三省堂, 付録 pp.1-8, 2025.1.10.(第7版)]
- 51 「動詞の活用をどう教えるか— 日本語教授者のための知識・教授方針の整理—」『東京大学 留学生センター紀要』9, pp.29-53, 1999.3.31.
- 52 「サエとデサエ」『日本語科学』6, 国立国語研究所/国書刊行会, pp.7-31, 1999.10.15.
- 53 「「ら抜き」は日本語の乱れか」『国語展望』105, 小学館, pp.8-9, 1999.11.15.
- 54 「古文の敬語を理解するために— 現代語の敬語と比較しながら—」『三省堂詳説古語辞典』三省堂, pp.1387-1390, 2000.1.10.
- 55 「タノシイとウレシイ」山田進・菊地康人・靱山洋介編『日本語 意味と文法の風景— 国広哲弥教授古稀記念論文集—』ひつじ書房, pp.143-159, 2000.2.29.
- 56 「「のだ(んです)」の本質」『東京大学 留学生センター紀要』10, pp.25-51, 2000.3.31.
- 57 「良質の記述的研究の重要性— 日本語研究界と日本語教育界とにあって思うこと—」(特集 日本語研究の将来と国語学会), 『国語学』200, 国語学会, pp.48-50, 2000.3.31.
- 58 「「は」と「が」の大きな違い」『国語展望』106, 小学館, pp.14-15, 2000.6.1.
- 59 「「ようだ」と「らしい」— 「そうだ」「だろう」との比較も含めて—」『国語学』51 巻1号, 国語学会, pp. 46-60, 2000.6.30.
- 60 「所有の「ある」と「もっている」」『世界の日本語教育 日本語教育論集』10, 国際交流基金 日本語国際センター, pp.147-163, 2000.6.30.
- 61 「いわゆる様態の「そうだ」の基本的意味— あわせて, その否定各形の意味の差について—」『日本語教育』107, 日本語教育学会, pp.16-25, 2000.10.25.
- 62 「テン(読点)の打ち方の基本」『国語展望』107, 小学館, pp.14-15, 2000.11.15.
- 63 「〈形〉と〈意味〉を結ぶ〈文法〉を追う魅力— 「は」や, とりたての構文を例に—」『国文学 解釈と教材の研究』46 巻2号(2月号), 学燈社, pp.6-14, 2001.2.10.
- 64 「敬語の現在と将来」『日本語学研究』3, 韓国日本語学会, pp.1-17, 2001.3.20.
- 65 「文語文法をわかりやすく」『国語展望』108, 小学館, pp.16-17, 2001.11.15.
- 66 「ハとガの話」『UP』31 巻12号(12月号), 東京大学出版会, pp.25-29, 2002.12.5.
- 67 「敬語とその主な研究テーマの概観」菊地康人編『朝倉日本語講座8 敬語』朝倉書店, pp.1-30, 2003.3.25.
- 68 「現代語の極限のとりたて」沼田善子・野田尚史編『日本語のとりたて— 現代語と歴史的变化・地理的変異—』くろしお出版, pp.85-105, 2003.11.15.
- 69 「三上章の敬語論— 日本語の主語論への貢献も含めて—」『国文学 解釈と鑑賞』69 巻1号(1月号), 至文堂, pp.99-109, 2004.1.1.
- 70 「「どうせ」の用法の分析」石塚晴通教授退職記念会『日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開』汲古書院, pp.734(左421)-712(左443), 2005.5.27.

- 71 「「敬語とは何か」がどう変わってきているか」『日本語学』24 卷 11 号 (9 月臨時増刊号), 明治書院, pp.14-21, 2005.9.10.
- 72 「主題のハト, いわゆる主題性の無助詞」益岡隆志・野田尚史・森山卓郎編『日本語文法の新地平 2 文論編』くろしお出版, pp.1-26, 2006.10.28.
- 73 「受難の「んです」を救えるか」『言語』35 卷 12 号 (12 月号), 大修館書店, pp.6-7, 2006.12.1.
- 74 「受身は「難しくて役に立たない」か—現場から考える「初級文法教育, こうしたら—」『AJALT』30, 国際日本語普及協会, pp.18-22, 2007.6.10.
- 75 「「敬語の指針」をめぐる」『私たちと敬語』(新「ことば」シリーズ 21), 国立国語研究所, pp.32-43, 2008.3.31.
- 76 「敬語の現在—敬語史の流れの中で, 社会の変化の中で—」『文学』(隔月刊) 9 卷 6 号 (11・12 月号), 岩波書店, pp.8-23, 2008.11.25.
- 77 「「ておく」の分析」『東京大学 留学生センター教育研究論集』15, pp.1-20, 2009.3.31.
- 78 〈菊地康人・増田真理子〉「初級文法教育の現状と課題—「です・ます完全文」をテンプレートとする教育からの転換を—」『日本語学』28 卷 11 号 (9 月号), 明治書院, pp.64-74, 2009.9.10.
- 79 「日本語の文構成原理と, 「が」の文構成上の機能」上野善道監修『日本語研究の 12 章』明治書院, pp.117-133, 2010.6.25.
- 80 「日本語を教えることで見えてくる日本語の文法—「X は Y が Z」文と「Y が Z」句—」『日本語文法』10 卷 2 号, 日本語文法学会/くろしお出版, pp.22-38, 2010.9.30.
- 81 「敬語」益岡隆志編『はじめて学ぶ日本語学—ことばの奥深さを知る 15 章—』ミネルヴァ書房, pp.51-69, 2011.10.25.
- 82 「日本語教育の「動詞基本形」をめぐる攻防」『日本語学』32 卷 13 号 (11 月号), 明治書院, pp.76-84, 2013.11.10.
- 83 「日本語教育と日本語学の「これまで」と「これから」」定延利之編『私たちの日本語研究—問題のありかと研究のあり方—』朝倉書店, pp.70-75, 2015.5.15.
- 84 「敬語的なものを広く捉えようとすることについて」『日本語学』36 卷 6 号 (6 月号), 明治書院, pp.10-15, 2017.6.10.
- 85 「日本語教育における「は」と「が」」『国学院雑誌』122 卷 10 号 (10 月号), pp.左 1-20, 2021.10.15.
- 86 「「敬語の指針」についての覚書と, もう一つの敬語分類案」近藤泰弘・澤田淳編『敬語の文法と語用論』開拓社, pp.17-58, 2022.3.24.
- 87 「敬語の分類」「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」「美化語」荻野綱男編『敬語の事典』朝倉書店, pp.29-36+pp.42-61, 2022.9.1.
- 88 〈菊地康人・増田真理子〉「日本語教育の受身の指導法改善と, 被害の有無の識別法—〈さし向け〉による受身の捉え直しと, その日本語学への提案—」庵功雄編『日本語受身文の新しい捉え方』くろしお出版, pp.167-198, 2022.12.23.

- 89 〈菊地康人・前原かおる〉「文法的な見方を活かす授受動詞の日本語教育設計」『日本語文法』23 巻 1 号, 日本語文法学会／くろしお出版, pp.4-19, 2023.3.31.
- 90 「〈強調〉の正体に迫る」『国学院雑誌』124 巻 8 号 (8 月号), pp.56-57, 2023.8.15.
- 91 「初級日本語教育の諸問題の連鎖と, それらの一括解決の提案 — 辞書形をはじめ, プレインフォームへの習熟を —」『日本語／日本語教育研究』14, 日本語/日本語教育研究会／ココ出版, pp.5-28, 2023.10.1.
- 92 「現代語の逆接の「ものの」」『国語研究』87, 国学院大学国語研究会, pp.左 45-73, 2024.2.28.
- 93 「「A は B より……」文の〈成立条件〉 — あわせて, 「は」「もっと」「V たほうがいい」について —」『国学院大学日本語教育研究』15, pp.1-14, 2024.3.31.
- 94 「現代語「こそ」を捉え直す — 〈強調〉という名づけを超えて —」『国語研究』88, 国学院大学国語研究会, pp.左 87-112, 2025.2.28.
- 95 「非母語としての日本語の読解上の難所 — 中上級を中心に, 「ている」・「は」・連体修飾・文構造について —」『国学院大学大学院紀要』56, pp.左 1-24, 2025.3.31.

辞典等の分担執筆等

辞典・事典 (「論文等」に該当する場合は, その項に掲げた)

『光村国語学習辞典』光村教育図書／『大事典デスク』『百科中事典アルカディア』講談社／『日本大百科全書』小学館／『日本歴史大事典』小学館／『国際教育事典』アルク 1991.1.1.／日本語文法学会編『日本語文法事典』大修館書店 2014.7.10.／佐藤武義・前田富祺他編『日本語大事典』朝倉書店 2014.11.6.／日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018.10.20.

報告書等

柴田武編『都市化と敬語 — 昭和 52 年度札幌における敬語調査報告 —』(科研報告書) 1979.
国際交流基金・日本国際教育協会『日本語能力試験 出題基準』凡人社, 1994.11.30.

高校教科書の共編 (教材選定, 作問, 指導資料の作成等)

『高等学校国語Ⅱ』(1998 検定) 『高等学校現代文2』(1999 検定) 他数点, 三省堂.

その他の執筆等

- 1 「敬語 (日本語大問題集 第 14 問)」『言語』18 巻 5 号 (5 月号), 大修館書店, pp.64-65, 1989.5.1.
- 2 〈遠藤織江・菊地康人・熊井浩子 (座談会)〉「敬語をどう教えるべきか — 日本語教育のなかの敬語 —」『日本語』3 巻 5 号 (5 月号), アルク, pp.8-13, 1990.5.1.
- 3 「授業の腕を上げる 7 か条」『キャリアガイダンス』25 巻 5 号 (6 月号), リクルート, p.12, 1993.6.1.
- 4 (紹介) 「アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター編『*Formal Expressions for Japanese Interaction* 待遇表現』」『日本語教育通信』23, 国際交流基金日本語国際センター, pp.11-12, 1995.9.

- 5 (紹介)「五味太郎 制作・監修『言葉図鑑』①-⑩」『東京大学 留学生センターニュース』9, pp.4-5, 1996.1.
- 6 「敬語との出会いから上梓まで」『三省堂ぶっくれっと』118, 三省堂, pp.30-31, 1996.3.1.
- 7 (紹介)「野田尚史著『「は」と「が」』『言語』26 卷3 号 (3 月号), 大修館書店, p.142, 1997.3.1.
- 8 「敬語を正しくスマートに— ビジネスマンのための敬語再入門—」『ビジネスガイド』1997 年 9 月号-1998 年 8 月号. 日本法令, 12 回連載, 各回約 3000 字.
- 9 「日本語のセンスアップはまず敬語から」『ほんとうの時代』1997 年 12 月号, PHP 研究所, pp.18-28, 1997.12.1.
- 10 「敬語の散歩道」『読売新聞 日曜版』1998.1.11-1998.5.31. 21 回連載, 各回約 1200 字.
- 11 「教師の「わざ」と「学」」『読売新聞』1999.11.13 夕刊 9 面.
- 12 「言葉の品位 教育に課題」『読売新聞』2000.1.10 朝刊 31 面.
- 13 “Education Key to Maintaining Language Standards” *The Daily Yomiuri*, 2000.1.24, p.7.
- 14 「敬語の力を高めるために」『月刊国語教育』21 卷 10 号 (12 月号), 東京法令出版, pp.12-15, 2001.12.1.
- 15 「「書く力」低下に注意必要」『読売新聞』2002.1.31 朝刊 15 面.
- 16 「言葉の教育に望むこと」『月刊国語教育』23 卷 6 号 (8 月号), 東京法令出版, pp.40-43, 2003.8.1.
- 17 (紹介)「滝浦真人著『日本の敬語論— ポライトネス理論からの再検討—』『国語教室』82, 大修館書店, p.62, 2005.11.25.
- 18 「日本語の特徴を知って効果的に勉強しよう (1) 日本語って, どんな言葉? (2) 動詞とその活用 (3) 敬語と Style (4) 助詞「は」と〈情報構造〉」『東京大学 留学生センターニュース』34-37, 4 回連載, 2005-2006. [再録:「日本語学習入門」東京大学日本語教育センターウェブサイト <https://www.todai-ic-nihongo.com/incenter/materials/Introduction/index.html#page-1>]
- 19 「「東大」で「日本語を教える」という仕事」『学内広報』1375, 東京大学広報委員会, p.48, 2008.7.18.
- 20 「留学生に対する日本語教育の現状と課題— あわせて, 東京大学留学生センターでの事例紹介—」『留学交流』22 卷3 号 (3 月号), 日本学生支援機構/時評社, pp.2-5, 2010.3.10.
- 21 「敬語のおさらい」他 (監修)『大人の日本語再入門』ぴあ, pp.96-107, 2014.4.20.
- 22 「国広哲弥先生 ありがとうございます [追悼 国広哲弥先生]」『言語研究』162, 日本言語学会, pp.161-163, 2022.9.25.
- 23 「日本語を言語学的に分析する (1)「私は作った俳句です」は, なぜ日本語としておかしいのか (2)日本語を教えることと, 日本語を研究すること (インタビュー) 国学院大学ウェブサイト <https://www.kokugakuin.ac.jp/article/353298>, <https://www.kokugakuin.ac.jp/article/353331>, 2023.6.26.
- 24 〈菊地康人・吉田永弘 (対談)〉「日本語学対談: 古典語と現代語に橋をかける (1) 古典語研究と現代語研究の“遠さ”と“近さ”とは (2)「犬が走っている」は, 古典日本語ではどう表現する? (3) 日本語文法でなぜその変化が生まれていくのか? (4) 日本語はどうしてこうなるの? 日本語学習者と教授者を悩ませる日本語のあれこれ」国学院大学ウェブサイト (1) <https://www.kokugakuin.ac.jp/article/396012>, (2) <https://www.kokugakuin.ac.jp/article/396177>, (3) <https://www.kokugakuin.ac.jp/article/396198>, (4) <https://www.kokugakuin.ac.jp/article/396216>, 2024.3.15.

講演・口頭発表等

- 1 「敬語の種類と使用上の制約」国語学会 1979 年度秋季大会, 東北大学, 1979.10.21. [要旨: 『国語学』 120, pp.82-83.]
- 2 「「は」と「が」の文法」目黒ユネスコ協会 日本語教育研修講座, 同協会, 1987.2.13.
- 3 「「XはYがZ」構文の整理」日本語教育学会 1987 年度第 6 回研究例会, 国立教育会館, 1987.7.25. [要旨: 『日本語教育』 62, p.209.]
- 4 「日本語教育と文法」(財) 言語文化研究所夏季集中講座, 虎ノ門パストラル, 1988.7.26.
* 以後, 同研究所主催の同様の講座を数回担当
- 5 「文法の研究」国立国語研究所 日本語教育研修, 同研究所, 1988.7.28.
- 6 「文法と日本語教育」石川県立社会教育センター 日本語教師研究講座, 1989.7.7-8.
- 7 「日本語教科書の作成と言語学」(財) 津田塾会主催 文部省等後援 第 2 回日本語シンポジウム「言語理論と日本語教育の相互活性化」発題(招待), 津田ホール, 1989.12.3. [予稿集 pp.113-122.]
- 8 「「XはYがZ」文の幾つかの変種—‘再主題化’と分析されるものなど—」日本言語学会第 100 回記念大会, 東京大学本郷キャンパス, 1990.6.3. [要旨: 『言語研究』 98, pp.133-134.]
- 9 「〈言葉〉と人間の〈気持〉—日本語の研究と教育の例から—」横浜「言語と人間」研究会 第 17 回春季セミナー 講演, 国民生活センター (相模原市), 1991.3.27.
- 10 「日本語教育のための基礎研究—言語学者の仕事と日本語教育家の仕事—」津田日本語教育センター主催 第 5 回日本語シンポジウム「言語理論と日本語教育の相互活性化」発題(招待), 津田ホール, 1992.11.29. [予稿集 pp.93-108.]
- 11 「「は」構文(主題化構文)と連体修飾構文—それぞれの主な類型と並行性—」第 6 回日本語文法談話会, 国立国語研究所, 1992.12.13.
- 12 「日本語教育に文法をどう活かすか」宮城県国際交流協会特別公開講座, 1994.8.26./山形県国際交流協会日本語ボランティア研修会, 1994.8.27.
- 13 「敬語のしくみ」(社) 国際日本語普及協会 第 11 回公開研修講座, 昭和女子大学, 1995.6.25.
- 14 「敬語の現在と将来」国学院大学国語研究会平成 7 年度後期大会 講演, 国学院大学たまプラーザキャンパス, 1995.11.18.
- 15 〈井上ひさし・井上史雄・柏倉康夫・菊地康人・桑原隆・野元菊雄(パネルディスカッション)〉「言葉遣いの標準は立てられるか」文化庁 平成 7 年度国語施策懇談会, 国際交流基金国際会議場, 1996.2.29.
- 16 「敬語の現在と将来」朝日カルチャーセンター日本語教育研究講座, 同センター, 1997.10.25.
- 17 「広告と日本語」(社) 全国家庭電気製品公正取引協議会主催 家電公取協 20 周年記念 広告セミナー 講演, 東海大学校友会館, 1998.11.11.
- 18 「敬語の現在と将来」豊橋技術科学大学 特別講演, 同大学, 1999.9.10.
- 19 「敬語の現在と将来」日本語教育学会 2000 年度第 2 回研究集会 講演, ももちパレス (福岡市), 2000.6.24.

- 20 「日々の授業の腕を上げるために―〈文法的センス〉や〈教材を見る眼〉を鍛える―」日本語教育学会 2000 年度第 3 回研究集会 会員研修, ももちパレス (福岡市), 2000.6.25.
- 21 「日本語を教えるということ」 横浜日本語研究会主催・(財) 横浜市国際交流協会後援, 横浜国際交流ラウンジオープンイベント 講演, 同ラウンジ (産業貿易センタービル内), 2000.8.5.
- 22 「日本語の敬語の現在と将来」韓国日本語学会第 2 回学術発表会招請講演, 韓南大学校 (韓国大田市), 2000.9.23.
- 23 「いま変わりつつある日本語―変化途上の文法現象をとらえる―」学習院大学言語共同研究所研究例会 講演, 同大学, 2000.11.18.
- 24 「いわゆるポライトネスと敬語, およびその教育」2001 年度日本語教育学会春季大会シンポジウム「待遇表現教育」の方法論と実践―「敬語教育」を中心に―, 東京女子大学, 2001.5.26. [予稿集 pp.19-27.]
- 25 「文法という法―あわせて, いま変わりつつある日本語―」栄光法曹会 講演, 山王パークタワー 27 階, 2001.11.29.
- 26 「三上章の敬語論」くろしお出版主催『生誕 100 年記念三上章フェスタ フォーラム: 三上文法への誘い』講演, 東京国際フォーラム, 2003.3.30.
- 27 「ことばをもつ人間であること」栄光学園第 56 回創立記念日 記念講演, 同学園 (鎌倉市), 2003.6.20. [『学園通信』47, 同学園, pp.3-11.]
- 28 「〈周辺〉〈例外〉の魅力―そこから見えてくるもの―」日本語文法学会第 4 回大会シンポジウム「〈周辺〉〈例外〉と向き合う」企画趣旨説明, 青山学院大学, 2003.11.29. [発表論文集 pp.1-7.]
- 29 「〈一文〉〈〇×〉〈完全〉の文法と, そうでない文法」早稲田大学日本語学会 講演, 同大学, 2003.12.6.
- 30 〈菊地康人・増田真理子・前原かおる・本郷智子・大関浩美〉「現場から発信する「もうひとつの日本語教育文法」―日本語教師だからこそ見えること・できること―」2005 年度日本語教育学会春季大会 パネルセッション, 横浜国立大学, 2005.5.22. [予稿集 pp.283-294.]
- * 上記パネル全体の企画・統括を増田とともに行った。菊地自身の発表は, 下記 2 件。
- 〈前原・菊地〉「学習項目の提示順序の再検討による教育改善の可能性―理由の「から」「ので」を例に―」 [予稿集 pp.288-289.]
- 〈菊地・増田〉「「学習困難項目」とどう向き合うか」 [予稿集 pp.292-294.]
- 31 〈増田真理子・二通信子・菊地康人〉「論文作成を目指す留学生のための上級アカデミックライティング―「専門分野の違いを肯定的に捉える」という視点―」2005 年度日本語教育学会秋季大会, 金沢大学, 2005.10.9. [予稿集 pp.237-238.]
- 32 「日本語を外国人 (非母語話者) に教えるということ」品川区「冬の区民大学教養講座」夜コース, 品川区立中小企業センター大講習室, 2006.2.17.
- 33 「文化審議会答申「敬語の指針」説明」文化庁・大阪府教育委員会主催「文化審議会答申「敬語の指針」説明会」, ドーンセンター (大阪市), 2007.6.12.

- 34 〈菊地康人・井田由美・町田大輔 (鼎談) 〉 「「敬語の指針」をめぐる」文化庁・大阪府教育委員会主催「文化審議会答申「敬語の指針」説明会」, ドーンセンター (大阪市), 2007.6.12.
- 35 〈前原かおる・増田真理子・李相穆・菊地康人〉 「日本語の意味的・構造的理解を強化するための聴解型オンライン学習教材の開発」日本語教育方法研究会, 京都教育大学, 2007.9.22. [同研究会誌 14-2, pp.54-55.]
- 36 〈前原かおる・増田真理子・李相穆・菊地康人〉 「PC とモバイルを併用した, かな学習環境の開発—学習者の認知過程に配慮して—」 2007 年度日本語教育学会秋季大会, 龍谷大学深草学舎, 2007.10.7. [予稿集 p.11.]
- 37 「初級の教科書を見る目, 学ぶ目, 教える目」東京大学留学生センター + (財)文京アカデミー 連携講座「日本語ボランティアステップアップ講座: 日本語を外国語として学ぶとは (1)」, アカデミー文京 (文京シビックセンター内), 2008.5.23.
- 38 〈菊地康人・増田真理子・前原かおる・李相穆〉 「動詞活用の理解・習熟をサポートする Web 学習教材—学習者が主体的にルールを獲得するために—」 2008 年度日本語教育学会春季大会, 首都大学東京, 2008.5.26. [予稿集 p.10.]
- 39 「「てある」文から格助詞「が」を考える」第 99 回関東日本語談話会, 学習院女子大学, 2008.7.26.
- 40 〈増田真理子・前原かおる・菊地康人・李相穆〉 「渡日前 e ラーニングをとまなう日本語短期サマーコース—IARU-GSP における初級レベルのコースデザイン—」日本語教育方法研究会, 愛媛大学, 2008.9.20. [同研究会誌 15-2, pp.18-19.]
- 41 〈李相穆・増田真理子・前原かおる・菊地康人〉 「表記の学習支援を目的とした web 教材「日本語かっくん」の開発」日本語教育方法研究会, 神奈川大学, 2009.3.21. [同研究会誌 16-1, pp.64-65.]
- 42 「日本語を教えることで見えてくる日本語の文法—X は Y が Z」文と「Y が Z」句—」日本語文法学会第 10 回大会記念フォーラム 講演, 2009.10.24. [予稿集 pp.13-22.]
- 43 「システムでとらえる日本語の敬語」実践女子大学国文学科特別講演会, 同大学, 2009.11.14.
- 44 「日本語文法論(中上級)」日本言語学会夏期講座, 北海道大学, 2010.8.23-28. [同ハンドブック pp.108-131.]
- 45 〈増田真理子・前原かおる・菊地康人〉 「日本語学習者と構築する『Web 世界地図』—メディアを利用した学習者の情報発信の試み—」 2010 年度日本語教育学会秋季大会, 神戸大学鶴甲第 1 キャンパス, 2010.10.10.
- 46 「文法について何か気づくと, 三上章が先に言っていたことと重なるという一例—所動詞をめぐる—」くろしお出版主催「くろしお出版創業者 Okano Atunobu をしのぶ講演会」講演, 小田急ホテルセンチュリーサザンタワー21 階会議室, 2011.7.16.
- 47 〈菊地康人・増田真理子・前原かおる・河内彩香・竹山直子・向井留実子〉 「学部教養科目としての初心者向け "超短期日本語教育実習"」日本語教育方法研究会, 国際基督教大学, 2012.3.10. [同研究会誌 19-1, pp.38-39.]
- 48 「東京大学日本語教育センターにおける最近数年間の多様な教育プログラムの開発」第 27 回国立大学日本語教育研究協議会 話題提供, 東京海洋大学品川キャンパス, 2012.5.25.

- 49 〈増田真理子・前原かおる・菊地康人・向井留実子・河内彩香〉「webによる日本語の基礎語彙学習コンテンツの開発」2012年度日本語教育学会春季大会, 拓殖大学, 2012.5.27.
- 50 〈増田真理子・菊地康人・前原かおる・向井留実子〉「認知プロセスを考慮した補助動詞の句型指導 — 「である」「ておく」「てくる」「てもらう」を例として —」日本語教育国際研究大会, 名古屋大学, 2012.8.18. [予稿集 p.78.]
- 51 〈前原かおる・増田真理子・菊地康人・向井留実子・河内彩香・竹山直子〉「様態の「そう」の指導法改善」日本語教育国際研究大会, 名古屋大学, 2012.8.18. [予稿集 p.226.]
- 52 〈河内彩香・竹山直子・増田真理子・前原かおる・副島昭夫・菊地康人〉「文末の「んですけど」における音調上の特徴 — 前接要素, 発話意図との関連から —」日本語教育方法研究会, 東京大学本郷キャンパス, 2013.3.9. [同研究会誌 20-1, pp.10-11.]
- 53 〈増田真理子・前原かおる・菊地康人・渡部みなほ・藤田朋世・副島昭夫〉「初級後期段階から始める, 漢字圏学習者の漢字音「再学習」の支援の試み — 「一杯」は「いばい」とはなり得ないことの意識化を促すタスク —」日本語教育方法研究会, 東京大学本郷キャンパス, 2013.3.9. [同研究会誌 20-1, pp.44-45.]
- 54 〈増田真理子・前原かおる・河内彩香・竹山直子・菊地康人・[共同研究者] 副島昭夫〉「話し言葉の音声特徴を考慮した初級シラバス再構築の試み — 「んですけど」の提出順序をめぐって —」2013年度日本語教育学会春季大会, 立教大学, 2013.5.26. [予稿集 pp.295-296]
- 55 〈前原かおる・増田真理子・菊地康人・藤田朋世〉「漢字2字熟語の形態素境界における音交替の意識化タスクと, その学習効果」2013年度日本語教育学会春季大会, 立教大学, 2013.5.26. [予稿集 pp.325-326.]
- 56 〈前原かおる・増田真理子・菊地康人・藤田朋世・渡部みなほ・副島昭夫〉「漢字圏中級学習者は「撥音の後のh/p交替」をどう意識しているか — 「漢字音」学習タスクの開発を目指して —」日本語教育方法研究会, 立命館アジア太平洋大学, 2013.9.21. [同研究会誌 20-2, pp.16-17.]
- 57 〈増田真理子・前原かおる・河内彩香・藤田朋世・菊地康人〉「「させていただきたいんですが」における「テモラウ」「使役形」の「行為者転換機能」と, それを基軸にしたシラバスの提案 — 日本語教育の実践者の視点から —」日本語/日本語教育研究会第5回大会, 学習院女子大学, 2013.9.29. [予稿集 2, pp.36-37.]
- 58 〈藤田朋世・渡部みなほ・増田真理子・前原かおる・副島昭夫・野口真早季・菊地康人〉「漢字圏学習者を対象とした漢字音「再学習」支援のための授業デザイン — 中級学習者向けコース4日間の実践から —」日本語教育方法研究会, 横浜国立大学, 2014.3.15. [同研究会誌 21-1, pp.54-55.]
- 59 「中上級の日本語教育で目を向けたいこと — 学術的な日本語まで読める/書ける学習者を育てるために —」イタリア日本語教育協会2014年研修会基調講演, サピエンツァローマ大学, 2014.3.21.
- 60 〈前原かおる・増田真理子・藤田朋世・渡部みなほ・菊地康人・[共同研究者] 副島昭夫・野口真早季〉「中級漢字圏学習者向け教材「4日でマスター 日本語の漢字音」の開発」2014年度日本語教育学会秋季大会, 富山国際会議場, 2014.10.12. [予稿集 pp.247-248]
- 61 「文法研究と日本語教育を行き来する — 「XはYがZ」文などを題材に —」台湾日本語学会等主催2015年度台湾日本語文学国際学術研討会 基調講演, 輔仁大学, 2015.12.19. [予稿集 pp.1-9.]

- 62 〈前原かおる・増田真理子・藤田朋世・渡部みなほ・菊地康人〉「漢字圏学習者の漢語の「読み」の安定のための指導提案 — 読みを困難にする種々の原因との整理, 原理の指導を通して —」2017年度日本語教育学会春季大会, 早稲田大学, 2017.5.21. [予稿集 pp.197-202]
- 63 「「ことばは一人ひとり違う」ということと, 言語研究」 東京大学言語学研究室合同コロキウム「言語のなかの社会」, 東京大学文学部, 2018.2.10.
- 64 〈前原かおる・増田真理子・河内彩香・猪股来未・菊地康人〉「従属節の「丁寧形+から」の使用実態と, その教育再考」2018年度日本語教育学会春季大会, 東京外国語大学, 2018.5.27. [予稿集 pp.188-193.]
- 65 「よりよい授業をするための文法 — そのセンスとスキルをみがく —」長沼スクール東京日本語学校 日本語教師夏季集中セミナー, 同校, 2018.8.17.
- 66 「よりよい授業につなげる教師の「文法力」 — 知識とセンスとスキルを高める —」長沼スクール東京日本語学校 日本語教師夏季集中セミナー, 同校, 2019.8.12.
- 67 「文法研究者・日本語教授者・日本語学習者の目で受身を見る — あわせて, 被害性の有無にかかわる要因を求める —」日本語文法学会第20回大会記念シンポジウム, 学習院大学, 2019.12.8. [予稿集 pp.207-214.]
- 68 「初級日本語教育の諸問題の連鎖と, それらの一括解決の提案 — 辞書形をはじめ, プレインフォームへの習熟を —」日本語/日本語教育研究会第14回大会 講演, 学習院女子大学, 2022.10.2.
- 69 「「が」の「とりたて助詞」的性格対照言語行動学研究会第20回記念大会 講演, 神奈川大学, 2022.10.8.
- 70 「日本語を教えるということ」国学院大学大学院プレ・リカレントプログラム 知の工房第3室「日本語教育の世界」第1回, オンライン, 2022.11.2.
- 71 「日本語教育と〈ことばの用法の分類〉」京都大学 国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター 第29回多文化交流フォーラム, オンライン, 2023.2.22.
- 72 「「てある」と「が」と「いちごが売っている」をめぐって」国学院大学国語研究会令和5年度前期大会 講演, 国学院大学渋谷キャンパス, 2023.7.15.
- 73 「「AはBより……」文の奥深さ — 〈どんな場合に使うか〉を考える/教えることの重要性 —」第35回国学院大学日本語教育研究会 講演, 国学院大学渋谷キャンパス, 2023.12.16.
- 74 「日本語って……」国学院大学「文学塾」, 国学院大学渋谷キャンパス, 2024.3.23.
- 75 「数十年後の「近代語」研究のための題材 — いま変わりつつある日本語の観察から —」日本近代語研究会2024年度春季大会(第412回研究会) 講演, 国文学研究資料館, 2024.5.31.
- 76 「日本語ってどんなことば? — 言語学的に見ると —」生涯学習アカデミーちば第10期第4回, 千葉市生涯学習センター, 2024.7.17.
- 77 「いま変わりつつある日本語 — 「ら抜き」「させていただく」などを解析する —」渋谷区民大学講座, 国学院大学渋谷キャンパス, 2024.11.23.

以上